

## I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	小浜市立今富小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	61	67	61	57	65	62	3	376	

## II 研究の概要

## 1. 研究主題

基礎・基本を身に付け、自らの力で解決しようとする児童  
—— 一人一人に力をつけるための指導の工夫 ——

## 2. 研究の内容と方法

## (1) 実施学年・教科

・全学年 算数科

児童の実態調査の結果から、最も「確かな学力」を付けなければならない教科であるため

## (2) 年次ごとの計画

《平成15年度》

テーマ

基礎・基本を身に付け、自ら問題を解決する子を育成するために、算数科における個に応じたきめ細かな指導の在り方はどうあるべきかを明らかにする。

研究の見通し

算数科において、個に応じたきめ細かな指導を展開し、一人一人に基礎・基本を確実に身に付けさせることによって、確かな学力を保証し自らの力で課題を解決する児童が育つであろう。

研究の内容・方法

## ① 算数科における基礎・基本を確実に身に付けるための方法を検討と実践

ア 指導者が基礎・基本を意識し理解するための取組

・「その単元に入るまでに身に付けておきたい基礎・基本」及び「その単元で身に付けさせたい基礎・基本」を再分析

イ 基礎・基本の定着を図るための取組

・児童の習熟の程度やつまずき、学習スピードの把握  
・改善のための手だて

チャレンジタイムの設置

ドリルタイムの設置

## ② 個に応じたきめ細かな指導を行うための指導形態の工夫・改善

ア TT・少人数指導計画の作成

イ TT・少人数指導の形態の工夫

・1年生…一斉指導

・ 2・3年生…TT指導

単元を通して一斉指導を行う場合

単元の途中でコース別にわかれる場合

授業に習熟度別TTを織り交ぜながら単元を進める場合

・ 4～6年生…少人数指導

等質（3等分）少人数の場合

習熟度別少人数の場合

課題別少人数が入る場合

ウ 補足的な学習と発展的な学習の扱い

・ TTや等質少人数で指導する場合には、効果的に補足的な学習を取り入れて実践

・ 習熟度別少人数で指導する場合は、それぞれのクラスの基礎・基本の定着の程度によって補足的な学習や発展的な学習を取り入れて実践

③ 評価を生かした指導の改善

授業中に児童の理解度を手早く評価するための方法として座席表を基にしたシートを利用

TTの場合はT1とT2が、少人数の場合はクラス担当者が机間巡視しながら評価

この評価によって個別指導やミニ授業など必要な手だてを実施

クラスが移動する場合は、シートを持ち寄り、担当同士が個々の理解度を把握するのに活用

④ その他、関心・意欲を高め、確かな学力向上を図るための教育活動の実践

ア 算数コーナーの設置

イ 意識・生活調査の実施

ウ 保護者への少人数だより「ぐんぐん」の発行

エ その他

・ 朝読書の推進

・ 日記・作文・漢字指導の推進

・ 発表ルールの徹底

・ スピーチタイムの設置

《平成16年度》

テーマ

基礎・基本を身に付け、自ら問題を解決する子を育成するために、算数科における個に応じたきめ細かな指導の在り方はどうあるべきかを明らかにする。

研究の見通し

算数科において、個に応じたきめ細かな指導を展開し、一人一人に基礎・基本を確実に身に付けさせることによって、確かな学力を保証し自らの力で課題を解決する児童が育つであろう。

研究の内容・方法

① 算数科における基礎・基本を確実に身に付けるための実践の充実

② 個に応じたきめ細かな指導を行うための指導形態の改善と充実

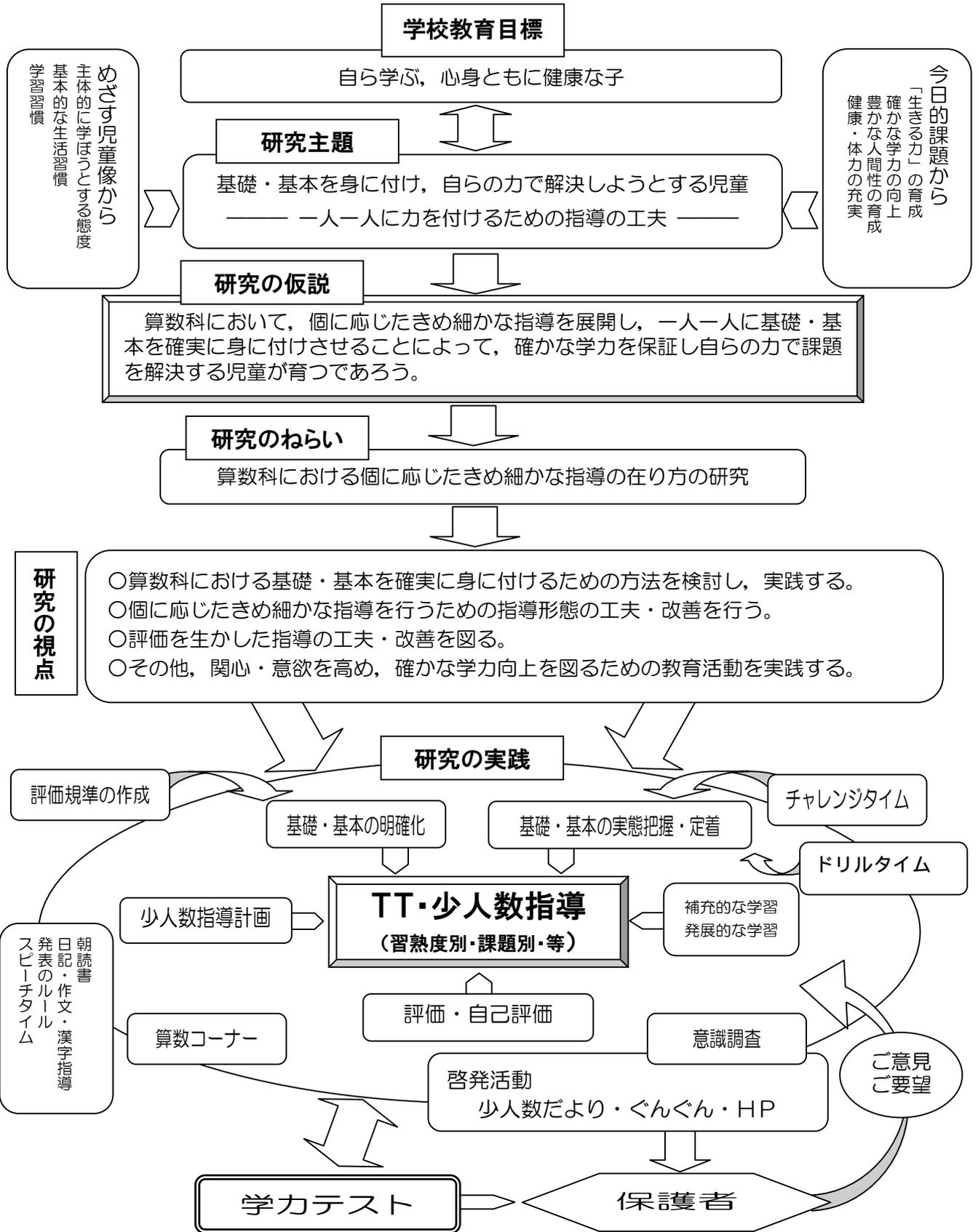
③ 評価を生かした指導の充実と改善

④ 補足的及び発展的な学習のための教材の開発

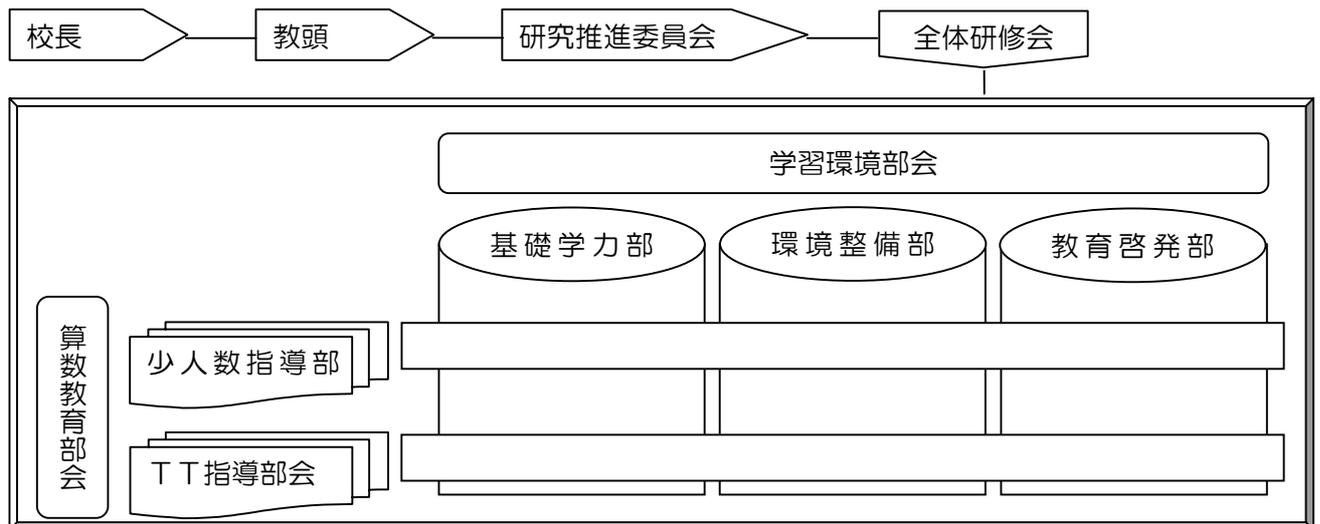
⑤ その他、関心・意欲を高め、確かな学力向上を図るための教育活動の実践

(3) 研究推進体制

全体構想図



## 研究の組織



研究推進委員会：総合的な企画立案の検討，各部会間の連絡調整，研究の推進

少人数指導部会：算数科における少人数指導の在り方及びその研究実践

T T指導部会：算数科におけるT T指導の在り方及びその研究実践

基礎学力部会：基礎学力の分析，及び基礎・基本の定着のための手だての研究推進

環境整備部会：学習環境の整備計画及びその推進

教育啓発部会：児童の学習意欲・生活習慣の把握及びそれを基にした保護者への啓発

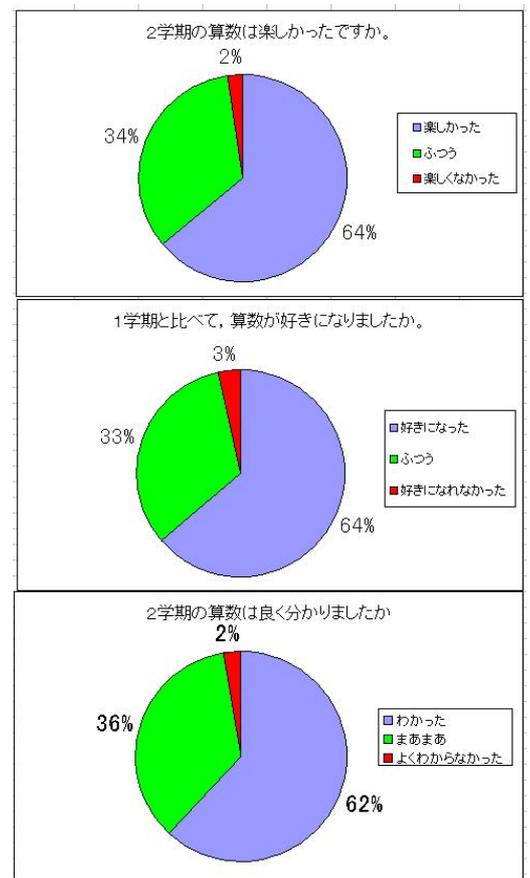
## Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

・T Tや少人数で学習することについて「分からないことも丁寧に教えてもらえる」「自分にあったペースで学習できる」など、一斉授業では得難かった感想を挙げている児童が大半である。このことから、T Tや少人数で『関心・意欲・態度』が高まったことは明らかである。「算数科についてのアンケート」では、「算数が楽しい」児童が全校の67%「算数が好きになった」児童が64%で「ふつう」と答えた児童も含めるとどちらも90%を超えていることがそれを裏付けている。

・目に見える変容としては、習熟度別少人数に分けたどのクラスでも、積極的に発表したり、解き方を自分から板書しに行ったりする意欲的な児童が増えてきた。これは、同じレベルの児童でクラスを構成したという安心感や、「分かる・できる」などの充実感や成就感によるものと考えられる。これも一斉指導において活躍する児童が決まってくるのと比べると、少人数指導における効果であると言える。

・『基礎・基本が確実に定着しているか』については、「算数はよく分かった」児童は「まあまあ」も含め98%にのぼる。この点では、一定の成果があったといえる。しかし、時間の経過とともに、定着の度合いが下がってくることも学力検査等で明らかである。



## 2. 今後の課題

### ・基礎的な計算力のより確実な定着

チャレンジタイムやドリルタイムを設定したことにより、児童の計算力は着実に伸びてきている。しかし、児童みんなが確実に計算の意味を理解し、活用できているかと言えばそうではない。全体の底上げのほか、より確実な定着のために、指導法を工夫したり習熟の時間をより確保したりするなどの対策が必要である。

### ・児童による、より能動的なクラス選択のための支援

現在、少人数のクラス決定は、レディネステストの結果を基に教師と面談し、保護者の同意を得て行っている。今後は、どのようにクラスを分けるのかを児童により分かるように提示するために、その単元に必要な基礎・基本をより明確にしたレディネステストづくりと、その形式の統一、さらに児童が自分自身でクラスを選択する際の教師の支援について研究をする必要がある。

### ・単元における補充の時間の確保

習熟度別指導を行うとき、基礎・基本が定着している児童に対しては進捗の関係から、補充の時間はとりやすい。一方、未定着の児童に対しては、単元の最初に必ず復習の時間を設けている。さらに、丁寧に指導していくが故に、単元全体の進捗もゆっくりである。そのため、もっとも補充が必要であるべき児童たちの反復・補充の時間が少なくなってしまうのが現状である。これについては、単元の指導時間のみ直しとともに、基礎・基本が定着している児童への発展的な課題の扱いを促進するなどに対応していく必要がある。

### ・「基礎・基本から応用に生かす力」をつけるための、生活に結びついた教材の開発

基礎・基本が定着してもその応用が難しい、つまり獲得したさまざまな知識や技能を駆使しながらも、課題を見つけたり、解決したりにつながらない児童が少なくないという実態がうかがえる。算数的に言えば、思考の伴う文章題で立式するための絵・作図・関係図・線分図などの具体的な活動が選択できない、思いつかない、忘れてしまうといったことが起こっている。これについては、算数的な活動をより多く取り入れることや、実生活に結びつくような教材を開発したりするなどの点を今後重視して取り組みたい。

## IV 学力等把握のための学校としての取組

### ○ 計算のつまずきチェックテストの実施（9月・2月）

下学年の内容にさかのぼって実施し基礎計算力の定着の度合いを把握

### ○ 実力テストの実施（学期末）

学期末に学習内容から出題される「実力テスト」を実施し、一定の成績を収めた児童を表彰

### ○ 県学力テストの実施（1月）

昨年度実施の福井県学力テストを実施し、経年比較

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○ 公開授業研究会

- ・日時 平成15年10月24日(金)
- ・対象 オープン 小浜市内を含めて63名参加
- ・公開授業 2年生 算数科 TT 「ちがいをみて」  
3年生 算数科 TT 「かけ算の筆算」  
6年生 算数科 習熟度別指導 「体積」
- ・内容 全体研究会, 分科会

○ 保護者対象学習発表会

- ・日時 平成15年11月30日(日)
- ・対象 保護者 多数参加
- ・公開授業 全学年全クラス
- ・内容 研究内容の説明会

○ 少人数だより「ぐんぐん」の発行

○ 学校ホームページの公開 <http://edu.city.obama.fukui.jp/imatomi>

○ 研究紀要の作成と公開

○ 嶺南地区別協議会等における実践報告

○ 全国からの視察に対応

平成15年11月4日 静岡県島田市校長会来校

【新規校・継続校】

■ 15年度からの新規校      □ 14年度からの継続校

【学校規模】

□ 6学級以下      □ 7～12学級  
■ 13～18学級      □ 19～24学級  
□ 25学級以上

【指導体制】

■ 少人数指導      ■ TTによる指導  
■ 一部教科担任制      □ その他

【研究教科】

□ 国語      □ 社会      ■ 算数      □ 理科  
□ 生活      □ 音楽      □ 図画工作      □ 家庭  
□ 体育      □ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

■ 有      □ 無